

製品・サービス動向-国内

■レノボ・ジャパン：2人から6人のハドル
ルーム向け、会議の効率化をサポートする
高機能オンライン会議システム

(記者発表会取材：2月12日)



ThinkSmart Hub 700

レノボ・ジャパン株式会社 (<https://www.lenovo.com/jp/ja/devices>) (東京都千代田区) は、2人から6人のハドルルーム向けを想定した、会議の効率化をサポートする高機能オンライン会議システム「ThinkSmart Hub 700」を発表した。同社としては昨年発表した「ThinkSmart Hub 500」に続く第二弾の製品となる。

場所を問わずに誰もがコラボレーションできる時代になった。しかし、レノボ・ジャパンが調べたところ、Skype などオンライン会議を導入済であるにも関わらず活用できていない人の割合が 35.8%もあるという。また、設定/操作が複雑でわかりにくい、コンテンツ共有がしにくい、音声がクリアでないといったオンライン会議に対する不満や問題点がユーザから指摘されているという。しかも、オンライン会議の開始が日常的に5分以上遅れる会議の割合が67%もあるということもわかった。

レノボグローバルの研究機関である大和研究所（横浜）ではこうした日本のユーザの声を聞きながら、使いやすいインターフェイスと簡単な会議設定、クリアな音声のサウンドシステムなどを備えた ThinkSmart Hub 700 を今回製品化した。



ThinkSmart Hub 700 の特徴



オーディオ・ファーストの筐体設計

この ThinkSmart Hub 700 は、スピーカー (Dolby Audio Speaker System に対応) と4つの360度マイクを搭載しており、アコースティック分離やサーマルモジュール、エアフロー設計などオーディオ・ファーストの筐体設計が特長となっている。Zoom や Skype for Business などを使い、遠隔地との良質で効率的なコミュニケーションが行えるようになっている。

会議室内での会議開始時には直感的なホイール型の操作タッチリング（前ページ写真：本体頭頂部の円形部分）、もしくは、各ユーザのPCやスマートフォンにインストール可能な「スマートオフィスクライアント」というソフトウェアから会議を開始できるようになっている。

同社によると、リリース時点ではAndroidデバイスに対応しているが、iOSについては今後対応を検討するとしている。

また、スマートオフィスクライアントをインストールしたPCやスマートフォンを持参したユーザが会議室に入室すると、クライアントデバイスがThinkSmart Hub 700のスピーカーから発する超音波をキャッチする機構を備えており、ユーザは“ワンタップ”で会議に参加できるようになっている。会議の開始を遅らせる原因となる暗証番号の入力といった手間をかけることなく、スムーズに会議をスタートできるとしている。

一方、このThinkSmart Hub 700は、PCやスマートフォンなどから、有線（HDMI）もしくは無線によるコンテンツ共有を最大4画面まで投影する（ワンタップで画面共有）ことも可能となっている。加えて、会議実施時の時間管理を支援するカウントダウン機能なども備えており、予定通りにミーティングが終われるような工夫もされている。

その他、管理機能も充実している。クラウド上に構築された「ThinkSmart コンソール」により、Webブラウザ経由で直感的にThinkSmart Hub 700を設定・管理することが可能となっている。

たとえば、ネットワークやアカウント設定、インシデント管理、アップデート管理などのほか、会議室の利用状況のモニタリング、一定時間利用がない場合の自動スリープ、ソフトウェアアップデートの設定、USBポートのブロッキングなど、さまざまな設定や管理がリモートで行えるようになっている。さらに、360度周囲に実装された人感センサーを活用した会議室利用状況を可視化・把握できるレポート機能も備えており、

会議室の有効利用や業務改善に役立てることが可能だ。

端末価格は、399,000円（税別）で、1年間のソフトウェア利用ライセンス権が付属している。2年目以降は、別途利用権の更新が必要という。

■エヌ・ティ・ティ・ビズリンク：クラウド型映像コミュニケーションサービス「SMART C&C」でシスコの「WebEx Teams」と相互接続

（1月30日）

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社（<https://www.nttbiz.com/>）（東京都文京区、以下）は、クラウド型映像コミュニケーションサービス「SMART Communications & Collaboration Cloud（SMART C&C）」において、シスコシステムズ合同会社が提供する「Cisco Webex Teams」との相互ビデオ通話接続を可能とするオプションメニューの提供を開始する。



「Cisco Webex Teams」との相互ビデオ通話接続

（NTT ビズリンク）

SMART C&Cは、テレビ会議システム、PCやタブレット、スマートフォン、「Skype for Business」、さらにWebブラウザから参加できるコミュニケーションサービス。ビデオ会議接続サービスシェアで5年連続1位の実績がある（シード・プランニング調べ）

今回リリースするオプションにより、Cisco WebEx Teamsを利用するさまざまなクライアント（Webex

Board、PC、タブレット、スマートフォンなど) から、簡単にビデオ通話で SMART C&C に接続することが可能となる。

また、SMART C&C を介すことで、Cisco WebEx Teams から、Skype for Business、H.323 対応テレビ会議システム、WebRTC ともシームレスに接続が行えるようになる。1 対 1 だけでなく、多地点での同時接続にも対応している。

NTT ビズリンクは、SMART C&C は、テレビ会議や Web 会議の枠を超え、企業が必要とするコミュニケーションプラットフォームを目指している。これまでの 20 年間の実績と未来の働き方・ビジネス環境から考える「顧客が本当に必要な機能」を SMART C&C につぎつぎと盛り込んでいく。

■ RSUPPORT : Web 会議システム 「RemoteMeeting」に AI を導入、操作方法 を説明する AI の活用によりスムーズな Web 会議を可能に

(1月23日)

RSUPPORT (アールサポート) 株式会社 (<https://www.rsupport.com/ja-jp/>) (東京都港区) は、AI を搭載した Web 会議の第一弾として、初心者のためのデモボット「アル」を公開した。

RemoteMeeting AIデモボット - アル



Web 会議に AI を搭載した RemoteMeeting の AI デモボット「アル」(RSUPPORT)

RSUPPORT の Web 会議である「RemoteMeeting」は、Web ブラウザ基盤で動作し、誰でも簡単に共同作

業を行うことができるコミュニケーションツール。会員登録やプログラムのインストールも不要で、Web ブラウザからワンクリックで Web 会議を行えるのが特長。

AI を導入したことで、AI デモボットが RemoteMeeting の特徴と各機能、実際の会議を行うように操作方法を説明するため、より簡単に行える Web 会議を実現した。初めて RemoteMeeting を利用する方でも、実際に会議を行いながら機能や使い方を学ぶことができる。アルは日本語、英語、韓国語に対応。

同社では AI により会議の効率化や生産性の向上につながると考える。今後、アルを AI デモボットから、ユーザがより会議に集中できるよう、簡単な指示でさまざまなサポートを行う AI 秘書へと機能の拡大を計画している。

RSUPPORT は、2006 年 4 月に設立。ウェブ基盤のリモートコラボレーションソリューションの開発とシステムの構築を事業としている。主要サービスとしては、RemoteMeeting のほか、テレワークソリューションパック「Rsupport Works」、リモートデスクトップツール「RemoteView」、リモートヘルプデスクツール「RemoteCall」などを提供している。なお、ミック経済研究所レポート(2018年)のリモートアクセス市場で国内 1 位、同レポート(2015年) SaaS 型リモート支援ツール市場で国内 1 位などを獲得している。

■ Plantronics 社 : 2~6 人のハドルルーム向け ビデオ会議製品「Polycom Studio」を発表

(米国 : 1月29日、日本 : 2月7日)

Plantronics 社 (<https://www.polycom.co.jp/>) (米国・カリフォルニア州、日本 : ポリコムジャパン株式会社) は、2~6 人のハドルルーム向けビデオ会議製品「Polycom Studio」を発表した。同社によると、Polycom Studio は、Plantronics 社とポリコム社が提供

する最初の重要なソリューションとなる。

Polycom Studio は、バーの形状 (=ビデオバー) をしておりポータブル型 USB デバイス。4K の解像度および 5 倍デジタルズームを備え、120 度の広視野角内で発言者を自動的に追跡し、フォーカスを合わせることができる。また、音声および映像はクリアな HD 品質に対応している。さらに、NoiseBlock 技術および Acoustic Fence 技術 (特許取得済) を搭載しており、オフィス環境内で妨げになるノイズを軽減または解消することもできる。企業のネットワークに無線で接続できるのも特長。

一般的な PC または Mac 上で動作する「Zoom」「Microsoft Teams」「Skype for Business」「Google Meet」「Cisco WebEx」「Amazon Chime」などのコラボレーションサービスの会議エクスペリエンスを向上させることができるという。

一方、管理面から見ても、Polycom Studio は管理しやすいソリューションという。たとえば、世界各地の事務所に導入されている Polycom Studio ビデオバーを直接触れることなく簡単に管理できる。また、Polycom Studio ビデオバーを他のポリコムデバイスとあわせて「Polycom Device Management Service for Enterprise」を使用してクラウドで管理するか、もしくは、「Polycom RealPresence Resource Manager」を使用してオンプレミスで管理することもできるという。

なお、本製品は、北米、欧州およびその他の一部の国において、今四半期の後半に出荷される予定となっている。

※Introducing Polycom Studio

<https://www.youtube.com/watch?v=uXoPZYeGkoY>

■スペースー：無料のウェブ会議ツール「スペースービデオチャット」を提供開始

(2月6日)

株式会社スペースー (<https://www.spacee.jp/>) (東京都港区) は、2月6日より、リモートワークにおける生産性向上を目的として、無料のウェブ会議ツール「スペースービデオチャット」 (<https://spac.ee/>) を提供開始する。

昨今、働き方改革の一環としてリモートワークが普及しつつあるが、同社では貸し会議室シェアリングサービス「スペースー」を通じて、リモートワーク可能でプライバシーが確保できる会議室や個室を主要都市中心に全国 5,000 室以上、また約 40 か所 1,000 席のワークスペースを取り扱っており、ビジネスパーソンを中心とした会員数は 17 万人を突破している。

しかし、一方でリモートワークに必要なツール不足に課題を感じたことから、同社では、リモートでのコミュニケーションをより円滑にするため、スペースービデオチャットの提供開始に至った。

スペースービデオチャットは、ブラウザからワンクリックでウェブ会議が行える。利用にあたって会員登録やアプリのインストールは不要で、任意の文字列から招待用の URL を作成するだけでチャットルームが開設されるようになっている。招待用 URL をクリックすると誰でもビデオチャットに参加できる。ほかにもテキストチャットや画面共有を備えている。

最大 6 人までの同時接続が可能で、40 分までの利用は完全に無料となっている。使用回数に制限はないとしている。

今後は参加者がより会議に集中できるように、録音や録画などサポート機能の拡充、あるいは、AI を導入することで自動での文字起こしや議事録の作成、さらには多言語間での同時翻訳機能を実装することも予定しているとしている。

ビジネス動向-海外

■ヤマハ：欧州地域における、ユニファイドコミュニケーション製品の販売体制を強化

(1月30日)

ヤマハ株式会社 (<https://jp.yamaha.com/>) (静岡県浜松市) は、2019年4月より、欧州地域での UC 製品の販売を拡大するため、米国を拠点とするヤマハ・ユニファイド・コミュニケーションズ社 (米国・マサチューセッツ州、以下YUC)が行っている販売業務を、欧州で楽器・音響機器の販売を統括するヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ (独・レリンゲン、以下 YME) へと移管し、UC 事業における販売体制を強化する。

ヤマハは、2006年に遠隔会議システム「Projectphone(PJP)シリーズ」で UC 市場に参入し、2014年には「YVC シリーズ」を発売。高品質・高音質で高い評価を獲得し、国内では遠隔会議用スピーカーフォン市場においてシェア No.1 (富士キメラ総研調べ) を確立している。

また2014年には、YUCの前身である Revolabs 社を100%子会社化し、北米を中心に製品の拡充、技術サポートの充実化、販売網の整備などを行うことでビジネスを拡大してきた。欧州地域では、同社が代理店を通じて2006年からPJPシリーズを販売し、2015年からは、YUCがYVCシリーズを中心に販売業務を担ってきた。

今回の業務移管によって、YMEに新たにUC製品専門の営業チームを組織し、業務用音響機器市場およびIT機器市場、双方の商流に向けて積極的な販売活動を行う。

この新体制により、会議用ワイヤレスマイクシステムや遠隔会議用スピーカーフォンが取り扱いのラインアップに加わることになり、小会議室から役員会議室、ホールといった大小さまざまな空間で、ヤマハグループならではの音に関する強みを生かしたトータルソ

リューションが実現するという。

加えて、YMEが持つ組織・人材を活用し、販売からアフターサービス、技術的サポートに至るまで欧州各国の顧客に対して、より細かな対応が可能になるとしている。

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

USB スピーカーフォン FLX UC 500

https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/fix_uc_500/index

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (2月~4月)

「災害現場の今を共有出来ていますか?災害発生の混乱時、意思決定のスピードと質を向上」、「働き方改革セミナー 失敗しない「Web会議」「テレビ会議」選び方徹底解説」「<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援!」「2分でかんたん動画作成 社内動画活用で働き方改革を推進!」など

会場 (東京・大阪・名古屋・福岡・Webセミナー)

詳細・申込: <https://jp.vcube.com/event/all>

■働き方改革 (ワークスタイル変革) 実践事例セミナー ~コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめる働き方改革~

日時: 2月19日 (火) 14:00~16:00 (受付: 13:30~)

会場: リコージャパン 晴海トリトン事業所

主催: リコージャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.rieco.co.jp/event/seminar/18S290.html>

<海外>

■Collaboration Week New York

日時：2月25日（月）～27日（水）

会場：アメリカ ニューヨーク

主催：IMCCA

詳細・申込：<https://619870.wixsite.com/collaborationweekny>

■EnterpriseConnect 2019

日時：3月18日～3月21日

会場：アメリカ フロリダ州オーランド

Gaylord Palms Resort & Convention Center

主催：United Business Media company

詳細・申込：<http://www.enterpriseconnect.com/orlando/>

■LiveVideoStackCon

日時：4月19日～20日

会場：中国・上海、上海光大会展中心国際大酒店

主催：LiveVideoStackCon

詳細・申込：<http://sh2019.livevideostack.com/>

※マルチメディア技術の分野におけるオーディオ&ビデオテクノロジーカンファレンス。

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dtc-forum）

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

■PDFファイル版（1号毎PDFファイル）

>2003年～2018年最新号（1号毎PDFファイル）

<http://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

■電子ブック版（複数号まとめているのがあります）

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2017年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

CNAレポート・ジャパン 2019年2月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp